

ある人生の記録

経済学者の夫、森嶋通夫を語る

第4回 10億円と日本発の研究所



森嶋瑠子略歴

もりしま よこ：1930年神戸生まれ。東京女子大学数学科（旧制）卒業後、日立製作所中央研究所助手、大阪大学経済学部助手などを務める。1968年に家族とともに来英し、以後、英国在住。1984年、国際児童文庫協会（ICBA）を東京で創設したオーバル・ダン氏とロンドンで出会い、日本語の文庫活動を始め、ICBA UK支部を創設。以後、支部長を務める。

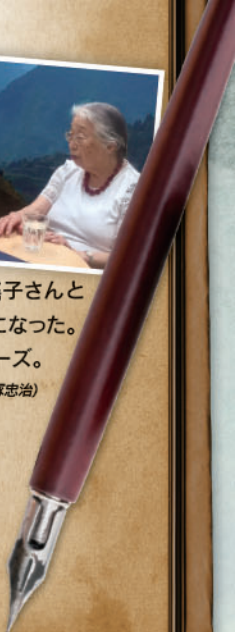
20世紀後半、世界的な経済学者として英国の名門大学で教授職を務められた森嶋通夫氏。私が森嶋さんを知ったのは学生時代、同氏の著書を読んだのがきっかけだった。毎日の忙しさに森嶋さんのことは記憶の彼方にあっただが、約2年前にあるレセプションで森嶋さんの奥様、瑠子さんと出会ったことから再び同氏の在りし日の活躍に思いを馳せるようになった。森嶋氏の人生の三角波を瑠子さんからお聞きする、全6回シリーズ。

（センターピープル代表取締役 飯塚志治）

※三角波：時化した海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う。

森嶋通夫略歴

もりしま みちお：1923年～2004年。大阪府生まれ。京都帝国大学経済学部経済学科在学中に徴兵。軍では暗号解読を担当した。戦後、京都大学助教授、大阪大学教授を経て1968年に来英し、エセックス大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の教授を歴任。ノーベル経済学賞の候補者とも目された世界的な数理経済学者。



飯塚 2月も中旬になりますと日が格段に長くなり、もうすぐ春という気持ちにさせてくれます。今日は森嶋さんのご活躍の場、英国でのお話を聞きたく思います。最初にロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）で経済学の教授に決まったときの話を伺えますか。

瑠子さん 英国の大学人事は原則として公募で、厳しいふるいにかけて採否が決まります。ただ候補者がその分野で世界的水準であった場合はそのような形では失礼ということで、公募でなく採否を決めることができます。幸いにも、同じ専門の友人がLSE教授だったので、2年契約のエセックス大学の客員教授期間が始まって間もなく、LSEから教授としての招聘があり、思っていたよりも簡単に就職が決まりました。審査過程で「森嶋の英語は大丈夫か」といふかった人もいたそうですが、「大丈夫だ。ミチオは我々と違って牧師のような英語をしゃべるから」とその友人の推薦で切り抜けた由です。

飯塚 この素晴らしいニュースを日本のご両親にお伝えしたときにはさぞお喜びになったでしょうね。

瑠子さん 森嶋の母親はその当時、かなり進行したがんにかかっており、私たちは心配に明け暮れていました。LSEに就職が決まり森嶋が父母に電話をかけたとき、電話口に出たのが母で、自伝にも書いていますが、「おめでとう」と言った母の張りのある声、「これで安心した、お母さんもうれしい」という言葉は、彼の励みや救いになりました。自伝執筆中、森嶋は私とも色々話をし書き進めておりましたが、ことに両親のことはよく話し合いました。当時の母の年齢に近付いていたせいか、「この電話のことを思い起こすたびに、『どうして今まで気が付かなかったのだろう』という思いに至った」と言うのです。

飯塚 何に気が付かれたのでしょうか？何となく想像できそうな気もしますが……。

瑠子さん 自伝にも書いています。「どうして今までそのことに考えが及ばなかったのだろうと暗澹たる思いにとらわれている。というのは母はその当時、私の就職先が決まることを希望すると同時に、決まらないこともきつと希望していたであろうからである。就職先がなければ私は帰ってくる！だから就職が決まって帰ってこないことを意味する私からの電話に母は血の気が引く思いで『おめでとう』と言っていたのであろう。このことに思い至るまで私は30年以上もかかったのだ」と。

飯塚 英国には、こちらに長く滞在されている方でご自分のご両親、兄弟姉妹が日本というケースも多くみられます。森嶋さんの心情に深く共感を覚えられる方が多いのではと思います。さてLSEには森嶋さんの発案で設立された研究所、「経済学及びその隣接学問のための国際研究センター」があり、サントリーとトヨタ財団が資金面からバックアップしています。同センター設立のために日本の政財官界の方々と話をされたと同いました。

瑠子さん そうですね。森嶋はフェローとしてオックスフォード大学に留学したときから、彼個人が世界の学会で認められることだけを考慮はせず、日本の経済学研究を世界に通じるものになりたいと念願していました。阪大社研を国際的な研究所に育て上げることができなかつたので、せめてそのような研究所を日本のお金で海外に作ることを考えていたのです。当時、日本はアメリカに次ぐ経済大国でしたから。

飯塚 そのようなお考えの中で、日本に飛んでこのプロジェ

クトへの支援を要請するために財界、官庁と訪ねられたものの実るものがなく、これで東京では万策尽きたというところで、大阪の高等学校の先輩の……。

瑠子さん そうなのです。森嶋よりも4年も学年が上で付き合いはなかつたのですが、佐治敬三さん（サントリー社長、当時）に話をしてみようと思いつき、「佐治さんに言って駄目なら、もうこの件から手を引こう」と私に話をしていました。森嶋の同窓生の間では、佐治さんの親切心と慈善心は有名で、しかもこれと思った企画には金惜しみをしない人だという定評があつたのです。

飯塚 それで？

瑠子さん もう単刀直入でした。計画を簡単に説明したら、「なんほいりまんね」と彼は応じて、森嶋は「10億円」と言ったのですね。「ちょっと高いな、半分でいけませんか、あんたが残りの半分を出す会社を見つけてきたら、私は5億円を出します」。森嶋が、「相手に注文を付けることはありませんか。商売敵だから駄目というようなことはありませんか」と尋ねると「ない」。このようにして5分くらいで話が成立。その後、知り合いの教授からトヨタに話を通していただき、豊田英二さん（当時社長）に会ってまもなく5億円の寄付を告げられたのでした。

飯塚 !!!

本コラムの過去記事は、下記アドレスでご参照いただけます
www.centrepople.com/japanese/article

Presented by
centre people
Recruitment Consultants

情報を発信し続けるセンターピープルは、人材紹介、派遣のエキスパートです。
誠意をもって心をこめたサービスを企業様、ご登録者の皆様に提供することを常に目指しております。

お呼び
ですか？

こんな時はセンターピープルにご相談下さい！

- 🐾 期間の決まった新規プロジェクト立ち上げ
- 🐾 正社員の予算はないが、戦力が必要
- 🐾 正社員の出産休暇中の戦力
- 🐾 様々な状況による柔軟な戦力として
- 🐾 繁忙期の期間限定戦力
- 🐾 短期、長期
- 🐾 日本語、英語、欧州言語

多忙で猫の手も借りたい時は、 戦力としてのテンプ【派遣社員】

私たちはこの道のプロフェッショナルです。テンプ採用に限らず正社員の採用の際にも弊社サービスをご利用いただくことで、安心してビジネスにご専念いただけます。

centre people
Recruitment Consultants

Centre People Appointments - Temp Staff 80 Cheapside London EC2V 6EE
Tel: 020 7621 3581 E-mail: centrepople@centrepople.com www.centrepople.com

